

『デジタルクレジット』

皆さんこんにちは。新年早々GMが来年からハンドル無しの車を量産すると発表しました。電子書籍のKindleでは端末からスマホに切り替えても読みかけのページから表示されるそうです。つまり私が何をどんな速度でどこまで読んだかが把握されているという事です。クラウド・ビッグデータ・AIの3要素で、我々は好むと好まざるに拘わらず既に把握されている。

中国アリペイは、個人の信用力を数値化し、信用力が高いと金利を安くし、ビザ発給やホテル予約も優遇され、コンビニ購入履歴は完全把握、年収を登録すると信用増加だそうです。無料貸出しの傘や自転車も盗むと信用力が減点されるのでちゃんと返却する。日本では財布を落としても戻ってきますが外国では有り得ません。これを皆さんどう思われますか？ 日本のマイナンバー制を一企業が勝手にやっているようなものです。日本では一企業にここまですべて情報管理させませんが、これを称してデジタルクレジットと言うそうです。印刷情報とデジタル情報は紙一重です。我々は過去と未来の狭間で、お客さんの信用獲得のために斬新な工夫をする必要があります。

『まずは知ることから始めよう』

皆さんこんにちは。人は好んで情報を発信し、人から自分を把握される。知られたい事、知らない事は隠しておきたいがそう上手くはいかない。先月書いたデジタルクレジットの世界だ。何もかもが情報として蓄積され把握される時代が来てしまった。

我々は凄まじい競争社会の中にいる、勝ち残らないまでも「生き残る」事の大切さを学び、悔やんで後悔しないように行動しよう。社会を知り、お客を知り、競合を知り、自分を知る。「実は自分は何も知らない」という事実は、怖いので触れないでくださいという自分がある。会社も同じだ。社長も同じだ。もっと知ることに欲を出そう。無理しないまでも行動を起こそう。アンテナを磨く場に身を置こう。知るためには漫画でもいいから本を読もう。知って理解して楽しめる世界に触れよう。できれば仕事に活かせることを学ぼう。社員諸君にはそうなって欲しい。我々が知ろうと思ひ、学び、考え、行動し、楽しくイキイキとする。これにどの位の予算が必要か。経営を科学し、人生を科学していくには、何からスタートすべきか。まずは人の話に耳を傾ける機会をいくつも作っていきましょうと思う。

二〇一八年二月二七日 社長 宗像 章

『ブロックチェーン』

皆さんこんにちは。わが社は今が稼ぎ時で忙しさの真っ最中です。社員諸君は自身の身体と気持ちに配慮しつつ「いい仕事」に徹して頑張ってください。

オリンピックの喧騒もひと区切りです。羽生結弦君の活躍は当社の仕事にも大いに貢献しました。有り難い事です。スポーツニッポン社のように情報感度を上げてビジネスに直結させたいものです。

ところで我々は情報産業の一端を担っています。昨年から何度もインダストリー4・0について話しましたが、実は水面下でソサエティ5・0という仮想空間と現実空間の融合を図る政府の社会構造改革行動が始まっているのを知りました。昔インターネットが可能になったのと似たような技術で、ビットコインに使われている技術が基です。情報を共有する社会構造が根本的に変わり、印刷業はこの波をまともにかぶりそうです。皆さんもこのブロックチェーンという情報処理技術をネットで調べて、その構造を知っておいて下さい。実生活面に応用されて現金をもたない社会に一気に変わりそうです。皆で学び、学習する会社にして生き残っていきましょう。

二〇一八年三月二七日 社長 宗像 章

『働き方改革』

皆さんこんにちは。大入袋が出てまずはおめでたい、ぜひ五月も獲得して下さい。

いま政府は働き方改革を主導しています。皆さんも考える力を動かして下さい。

短時間で仕上げる方法を考えると利益につながります。製品品質と作業品質を上げると利益につながります。そして大入袋や賞与につながり小さな幸せがきます。やり方は自分達で工夫して下さい。勉強は子供より大人の方が大切です。知識を得た後応用する機会を持つのは大人です。真っ直ぐに考えて下さい。何も考えないと感度が鈍り不幸を呼びます。技秀堂はみんなです。「スマート経営」をするのはです。経営を科
学するとはこのことです。優秀な印刷会社は今の印刷環境で10%以上の利益を出しています。我々にできないはずはないのです。先ずは受注した作番の予想利益を先行把握できるようにし、一円でも拡大するために何かを考え行動する、これが本来の仕事です。ここを目指しましょう。ムダはやってしまったら後では取り返せません。原価の削減は時間の削減から始まり、受注拡大は、行動の効率向上から始まります。当たり前前の事を当たり前前に行うという。

二〇一八年四月二七日 社長 宗像 章

『松下幸之助 運が大切』

皆さんこんにちは。四月に続き今月も大入袋が出せてうれしい限りです。しかも今回は倍額です。3ヶ月連続を狙おう！

もし皆さんが、上司に強要されること無しに会社を良くしようと本気で思い、誰も見ていない所でほんの少しだけ独自の改善行動をするようになったら、会社の業績などはあつという間に向上します。70人の頭脳と140の目で、隅々まで見て考えたら、見落としてはグツと減るからです。当たり前前の事ですが、自分の仕事の質を上げるのは自分であって、決して上司ではないからです。この本質的な真実は、当たり前過ぎて普段話題になりません。

頭が良くても知らないままでは人は何もできません。知っていてもそれを活かす場がないと人は何もできません。そして活かす場があってもどうしたいかの想いがないと、知識やチャンスを活かせません。結局人は、何をしたいのか、どうしたいのか想いを強く持っているかどうかで、未来や周囲との関係が決まっていくようです。

大昔、松下幸之助さんは運がいい人を信用すると言っていました。困ったことを言う人だと思いましたが今は理解できます。

二〇一八年五月二七日 社長 宗像 章

『松下幸之助 運を呼ぶには』

皆さんこんにちは。前回松下幸之助さんの話が出たので続けます。幸之助さんは運のいい人を信用すると言っていました。そんなことを言われたって困ると皆が思いました。しかし次の言葉で納得です。運がいい人には徳がある。徳があるので周りに良い友達が多く、日頃から情報や相談事がたくさん集まってくる。やがてやってみることに繋がり、他人に一目置かれる存在になる。しかし本人は「運がいいだけです」と淡々としている。だから信用できるというのです。徳を備えろと言われてもどうしたものか悩みます。しかし難しくないと云うのです。実は仕事の場に徳を磨くチャンスはいくらでも転がっているというのです。たくさんの人と感謝の人間関係を作るとそれ自体が徳であり、一気に運が向いてくるということです。人徳・人望の根本にある感謝の気持ちはどこから生まれるのか。「仁・義・礼・智・信」といわれますが、今風に言えば、人に依存せず主体性を持って行動し、上っ面でなく本質に触れた考え方で、利他の価値観を軸に生きることです。小生、三十まで松下電器の本社で幸之助さんを真近に見てきた経験に今は感謝です。

二〇一八年六月二七日 社長 宗像 章

『タフになろう』

皆さんこんにちは。今日は一考してみた。ものごとには単純化してシンプルに本質を見抜くべき時と、複雑なまま現実を直視すべき時とがある。この世には単純なものなど存在せず、一人一人がそれぞれの思いを持って、そのしがらみの上に現実が成り立っている。政治家や評論家が単純化して我々に解説する時は、裏で何らかの意図があると疑ってかかるのが自立した人間タフさの証だ。シンプルに単純化する事は、自分自身が頭の整理のために自分で行うべき事で、他人に単純化してもらおうべき事ではない。要は人が生きるといふ事は、自己責任の程度が表現された結果なのだ。日本人は「和をもつて貴しとする」を共有する特徴があるが、他民族のように、歴史上で民族そのものが殲滅されてしまう経験を持つ民族からすれば、日本は理想の国・社会であると同時に、戦いから自分で自分を守る自立精神に欠ける脆弱性を持つと見られる。どちらがいかという単純な問題ではなく、我々は時代に合った生き方を選択するしかない。振り込み詐欺に合わない事も、戦争で負けないための準備もある部分で共通していると思うのだが。

二〇一八年七月二七日 社長 宗像 章

『もっと大きな賞与を』

皆さんこんにちは。

本日は決算賞与の支給日です。まずは皆さんが自らの手で決算賞与を勝ち取ったことにエールを送ります。社長としては、約束した支給基準を皆さんがクリアしてくれた事は本当に嬉しいし、賞与を出せる幸せさは、社長でないと解らないので、皆さんの努力に心より感謝いたします。

但し、この程度で喜んでもらったのでは困ります。この程度とは皆さんにまだ余力がたつぷりあって、胃が痛くなるほどの緊張感には程遠いレベルに見えるからです。胃が痛くなる必要はないが、皆さんに真の充実感が残ったかどうか問いたいのです。

まだ利益率3%です。5%8%を出せるはずです。賞与も2倍3倍とれるはずです。個々の仕事のシーンでこんな努力で成果に結びつけた、とはつきり言える人は極わずかです。それでも全体として賞与に繋がったのです。全員がもう少し本気度を上げて利益に執着してくれるならば、すぐに倍の賞与が取れます。毎日唱和するように、「利益とは給与等の働く環境を向上する財源」なのですから。今回は現金支給の面白さも味わって下さい。

二〇一八年八月二十四日 社長 宗像章

『過去との決別』

皆さんこんにちは。いよいよ今週末は来期66期の方針発表会です。私は技秀堂が今期の65期をもって過去とは決別できたと思っています。未来に向かって進むべき方向が見え始めたと思うからです。この変化は幹部社員諸君のお陰です。同業他社では縮小する需要に解決策がなく心理的にうろたえていると思います。

印刷需要は今後更に減るでしょうが、ネット経由の情報提供だけではお客さんの深層心理に触れるのは無理で、印刷物の新たな役割が見え始めています。我々は既にこの事実を知っています。また印刷業にも他業種と同じ様にマーケティング活動が必要で、顧客の先にいる真の顧客を知るのが欠かせない事も解かり始めました。我々はこの事に気付いたものの、まだ具体的にどんな行動を取るべきかまでは見えていません。しかしそれを発見する為の行動だけは既に開始しています。今は何と微妙な時間帯でしょうか。技秀堂の周りには社会を変える力を内蔵する人が何人もいます。社内にもこれらの人と共同歩調を取れる人材もいます。今必要なのは、この状況を具体的に展開する推進エネルギーです。

二〇一八年八月二十七日 社長 宗像 章

『八千代の梨』

皆さんこんにちは。先般の方針発表会では皆さんの「意志」が伝わってきました。

はや一ヶ月が過ぎますが、皆さんが主体的に行動をするレベルになったと感慨無量です。主体性のある発言が今期の結果に結びつくことを期待しています。

話は変わりますが、今月は昨年同様皆さんに梨をお配りしました。私の住む八千代市には数万坪の梨園や、新宿が見える高層マンションや住宅街、大きな工業団地にはガラス工場や日写の印刷工場、白鷺が飛び交う広大な稲作田園風景、印旛沼からの用水路ではカヌー教室や釣り人、その横に野球スタジアムや観客席のある総合運動トラック等があり、50年前の田園風景から近代的な施設まで、あらためて考えると何でもある不思議な都市です。配った梨は、百年以上も改良され続けTVで紹介される程甘い梨です。お客さんの社長には昔から特玉をお送りして大好評です。幸水・豊水は人により好みはありますが、私は豊水の瑞々しさが好きです。又話は変えますが、日本は自然災害に蹂躪され、世界情勢は風雲急を告げています。こんな期こそ存在目的・使命を全うして結果を出しましょう。

二〇一八年九月二十七日 社長 宗像 章

『学習する会社と世界』

皆さんこんにちは。今年になって初めて、技秀堂は学習することと質を高めることを継続できる会社になって来ました。正直一年弱でここまで社内の空気を変えられるとは思っていませんでした。喜ばしい事です。運営指針にあるように、社員諸君の主体的な思考と行動が、多様性を発揮し、会社が活性化している証拠です。後は結果として成果の拡大に繋がるかどうかです。

さて、今、人類の価値観は歴史的転換期にきています。地球は宇宙に浮かぶ船で、皆で大切にしていこう、という空気が、英国のEU離脱宣言によって、たった3年で完全に消えてしまいました。良くも悪くも英国の世界に及ぼす影響力の大きさが解ります。自国利益最優先の名の下に、器の小さな政治家が跋扈して、豊かさと貧困の格差が、寛容さを許さない流れを生んで一気に膨らみました。日本でも大会社が納期優先で検査データを改竄し、信頼がガタガタです。表面上のお客様第一主義が蔓延し、真のお客様は誰かを忘れた結果です。納期の一日遅れなどは根本的な信用喪失ではないのに、社長や品管人の度量が矮小化し、判断を誤った根の深い問題なのです。

二〇一八年十月二十七日 社長 宗像 章

『幸福とは』

皆さんこんにちは。今回の話は幸福です。幸福とは何かを研究する幸福学が、ロボットやAIの研究開発の課題として注目されているそうです。幸福と感じている社員は、創造性で3倍、生産性で31%、売上で37%高く、しかも欠勤率と離職率が低いそうです。(ハーバードビジネスレビュー) 金と物と地位による幸福感は長続きせず、安全や健康などの心理的幸福感は長続きし、自己実現と成長への実感、利己より利他の人間関係、やらされ感のない自主的主体性、などは正にその通りとのこと。日頃、質的成長こそ活力や満足の源泉になると申し上げている事と一致します。変化が無く停滞すると心が澱みます。職場の理想は、明日も来たくなる職場、来るのが楽しい職場です。楽しいは面白おかしいとは違います。それなりの負荷が伴う緊張感と不透明感の中で、脳細胞を活性化すると幸福感につながる。価値観の偏らない多様性のある環境や、女性の多い職場はイノベーションが起こり易いそうです。我社の経営理念には、「我々が幸せになることを存在目的に掲げています。充実して楽しめる仕事環境作りをしていきましょう。

二〇一八年十一月二十七日 社長 宗像 章

ショートメッセージ

『倉本長治さん』

No.136

皆さんこんにちは。今年は、私にとって
気持ち晴ればれする清々しい年でした。
皆さんもクリスマスを前に大入り袋を手
にできて良かったですね。どうぞご家族で
良い正月をお迎え下さい。さて重要顧客の
「商業界」を作った倉本長治さんの話です。
小売業に「商売道」というビジネス哲学を
創始して、日本の小売業の精神的支柱とな
った方です。日本では半世紀前まで商売は
単なるゼニ儲けの手段で卑しく恥ずかし
い職業と思われていました。江戸初期に朱
子学が、武家社会の秩序確立のために学問
として浸透したのがその元凶です。戦国が
終わり平和到来の結果、商人の時代になり
ました。その儲けが半端でないため武士階
級にはゼニゲバに感じ、これに士農工商の
階級的社会秩序を作り対抗した結果です。
商売は物品を社会に流通させ人々の暮ら
しを豊かにする社会に必須の仕組みです
が、「人の心の美しさも醜さも出る」側面
があり商人自身も気づかない。倉本さんは、
小売業全体の存在目的を解かり易く示し、
「お客さんの心に響く商売」でゼニ儲けと
違う商売の社会的使命感を説いたのです。
我々はこんな人と繋がっているのです。

二〇一八年十二月二十七日 社長 宗像 章